

## 2 スルメイカ資源調査（我が国周辺漁業資源調査：独立行政法人水産総合研究センター委託事業）

石田敏則・松本育夫\*

### 目 的

国は、我が国周辺漁業資源の適切な保存及び合理的な利用を図るため、資源診断・動向予測・最適管理手法の検討を行うとともに、これに必要な基礎資料の整備を進めている。

スルメイカは、平成10年1月1日からTAC対象魚種となり、指定漁業ごとに漁獲総量が決められ性別、生殖腺重量等を測定する精密測定調査、外套背長組成を測定する体長組成調査、及び統計調査を実施した。

### 方 法

精密測定調査では、相馬原釜漁協及び久之浜漁協から購入した個体について外套長、体重、性別、及び生殖腺重量を測定した。

体長組成調査では、相馬原釜漁協において、水揚物の外套背長を測定した。

統計調査では、水産情報システムにより水揚量等を把握した。

### 結 果

#### （1） 体長組成調査及び精密測定調査

表1に測定実績を示す。測定結果については独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所へ報告した。

表1 平成13年度スルメイカ精密測定実績

| 調査月  | 体長組成測定回数 | 体長組成測定尾数 | 精密測定回数 | 精密測定尾数 |
|------|----------|----------|--------|--------|
| 4～1月 | 6        | 4,550    | 6      | 1,035  |

図1～図6に外套長組成の推移を示す。6月においては、外套長範囲14～18cmモード14cm、7月においては外套長範囲16～26cmモード18cm、9月においては外套長範囲18～28cm主モード16cm、副モード26cm、11月においては外套長範囲18～28cmモード19cm、1月においては外套長範囲11～28cmモード16cmのものが漁獲の対象となっていた。

\*現 水産事務所